

## 6.5 教育の質の向上

### 進捗状況報告

2007年度に行った授業評価は学生の回答率が低く、一部の学生の声しか反映されていないという問題点はあるが、その結果を見ると、授業科目やカリキュラムについての学生の満足度は高く、質の高い大学院教育がなされていると言える。今後は、現在の高い質の教育を維持しつつも、より多くの学生から回答が得られる授業評価方法等について検討する必要がある。

### 学内第三者評価

大学院における授業評価については多くの困難が指摘され、今後も様々な工夫がなされることを期待したい。

また、大学院教育は、教員と少人数学生（場合によっては1人）の密度の高い教育接触の場でなされるのが主流であり、指導教員以外に学生が相談できる教員を配置すること、相談を受けた教員が指導教員にアドバイスするなど相談結果を還元する方法について検討されることを期待する。

一方、とかく教員個人の指導に依存しがちな大学院教育においても、教育の質の向上のための組織的な取り組みが求められており、研究科全体で取り組む方策を明確にすることが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
授業評価アンケートはFD活動の基礎資料となりうるものなので、よりよい回収方法を工夫して信頼性の高いデータを得ることが望まれる。